

宮崎市新庁舎建設基本構想 検討資料

基本理念及び基本方針について

将来・未来のあるべき姿の考察

- 将来・未来のあるべき姿の考察にあたっては、外部環境の整理に活用されるPEST分析が有用であるため、国の政策動向の整理等を基に、キーワードを抽出し、PEST分析により政治・経済・社会・技術ごとに整理した。その結果を基に、将来・未来のあるべき姿を考察した。

Politics 政治

- 経済発展と社会的課題の解決の両立
- Society 5.0 / 超スマート社会 / DX
- デジタル・ガバメント / 行政サービスのデジタル化
- カーボンニュートラル
- 循環共生型の社会 / 地域循環共生圏の創造

Economy 経済

- 新しい資本主義 / 成長と分配の好循環
- 低成長 / 低金利
- シェアリングエコノミー
- 地方への新たな人の流れ 分散型国づくり
- ESG投資 / グリーンボンドの普及・拡大
- グリーン成長戦略による民間投資
- カーボンプライシング

Society 社会

- 超高齢社会と人口減少
- 多様な幸せが実現できる社会
- 包摂的な社会、一人ひとりの可能性の発揮 / 女性の参画
- 経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会
- 生産性の向上 / 働き方改革 / テレワークの一般化
- 年功序列の廃止 / 個の時代 / JOB型雇用 / 副業解禁
- バリアフリー、ユニバーサルデザインの推進
- 脱炭素社会

Technology 技術

- IoT・ビックデータ
- AI・ロボティクス・RPA
- 情報システムの標準化・共通化
- 自動運転
- AR・VR / メタバース
- ZEB

①誰でも親しめるようになっているデジタル技術を使いこなし、生産性が向上している

- デジタルに触れる障壁が下がり、誰でもデジタルに親しめるようになると考えられる。
- デジタルを使いこなし、生産性を向上させることが重要となると考えられる。

②人口減少対策や環境問題への対応など、持続可能な社会の実現に向けた取組が加速している

- 人口・特に生産年齢人口の減少が進む中でも、社会機能を維持していくことが求められる。
- 環境問題が深刻化する中で、カーボンニュートラルを実現し、持続可能な社会を形成していくことが求められる。

③多様な価値観を認め合い、誰もが生きがいを感じ、力を発揮できる環境になっている

- 誰ひとり取り残されることなく生きがいを感じることもできる包摂的な社会となっていくと考えられる。
- お互いを認め合う世の中であるからこそ、一人ひとりの力が発揮される社会となっていると考えられる。

- 宮崎市の現状、将来・未来の動向を考察し、市民懇話会の意見も踏まえ、基本理念・方針（案）を導き出す。

【 宮崎市の現状とこれまでの検討 】

現庁舎の課題

- ・防災上の拠点施設としての耐震性
- ・洪水による庁舎の浸水の可能性
- ・庁舎の分散化、狭隘化 ・ユニバーサルデザインへの配慮
- ・環境への配慮 ・駐車場 ・デジタル化

まちづくり

- ・地域に愛着をもち、新たな価値を共に創る
- ・都市文化の創造と発信の拠点
- ・コンパクトシティ/持続可能な公共交通ネットワークの構築
- ・南海トラフ地震等大規模自然災害への備え
- ・都市内分権の推進

財政

- ・市債の抑制/財政負担平準化 ・民間の力・資金の活用

市民懇話会の
意見も踏まえて

【 将来・未来のあるべき社会の姿 】

社会情勢の変化

誰でも親しめるようになっている
デジタル技術を使いこなし、生産
性が向上している

人口減少対策や環境問題への
対応など、持続可能な社会の実
現へ向けた取組が加速している

多様な価値観を認め合い、誰もが
生きがいを感じ、力を発揮できる
環境になっている

【 他自治体における新庁舎建設にあたっての取組事例 】

行政サービス提供方法

- ・手続きのオンライン化
- ・相談のオンライン化
- ・オンライン予約
- ・ワンストップサービス
- ・書かない窓口
- ・ユニバーサルな窓口対応

職員の働き方

- ・従来慣行にとられない
執務環境
- ・フリーアドレス
- ・ユニファイドコミュニケーション
- ・テレワーク

庁舎整備/利活用

- ・交流の場の創出
(情報発信、官民交流、市民協働)
- ・入退室管理システムによるセキュリティ
確保
- ・CASBEE/Nearly ZEBによる環境
配慮
- ・受水槽・汚水貯留槽・蓄電池等の防
災対策
- ・収益施設との複合化

基本理念・基本方針

基本理念

持続可能なまちづくりを支える機能的な庁舎

1. 市民に快適なサービスを提供する庁舎

- ✓ 行政手続きのオンライン化をはじめとするDXの推進により、市民等が庁舎を訪れなくても快適にサービスを受けられる便利な庁舎
- ✓ ワンストップサービスの導入やICTを活用したサービスの提供により、市民が素早く快適にサービスを受けられる便利な庁舎
- ✓ 子ども、妊婦、子育て世代、高齢者、障がい者、外国人など、誰もが快適に利用できる多様なニーズに対応したユニバーサルな庁舎

2. 市民の安全・安心を守り続ける庁舎

- ✓ 南海トラフ巨大地震や大規模な豪雨等による災害発生時にも、災害対応拠点として、市民の暮らしを支え続ける庁舎
- ✓ 感染症等のリスクが発生しても、業務を継続し、サービスを提供し続けられる庁舎
- ✓ 高度な情報管理や用途に応じたゾーンの等により、セキュリティを確保した庁舎

3. 職員の生産性の高い働き方を実現する庁舎

- ✓ 働きやすい執務空間やデジタル技術の活用等により、職員の多様で柔軟な働き方を実現し、生産性と創造性を向上させる庁舎
- ✓ 時代のニーズに応じて、執務空間を柔軟に変更でき、業務を効率的に実施できる庁舎

(参考) 想定される機能・スペース

- ✓ 行政手続きのオンライン化
- ✓ 行政相談のオンライン化
- ✓ ワンストップ窓口
- ✓ 書かせない窓口手続き
- ✓ キャッシュレス決済
- ✓ 窓口予約システム
- ✓ 授乳室・キッズスペース

- ✓ 災害対策機能（災害対策本部、災害対応スペース、浸水対策（機器の非浸水階の設置、ライフラインの途絶対策））
- ✓ 耐震性能の確保（構造体Ⅰ類、建築非構造部材A類、建築設備等甲類）
- ✓ バックアップ機能（エネルギー源、防災備蓄倉庫）
- ✓ 感染症対策（非接触での機器類操作、換気システム）
- ✓ セキュリティ対策（セキュリティーゾーニング）

- ✓ 多様な執務環境（フリーアドレス、打合せスペース、窓口相談スペースなど）
- ✓ 会議室（可変間仕切り、予約システム）
- ✓ 書庫（ペーパーレス化を見据えた）
- ✓ 可変性のある空間（スケルトン・インフィル、将来余剰スペースになった場合の配慮）

基本方針の修正（案）

4. カーボンニュートラルの実現を牽引する庁舎

- ✓ 太陽と豊かな自然を活かして、環境負荷を低減しカーボンニュートラルの実現を牽引する庁舎

5. 適正なコストにより整備・維持管理できる庁舎

- ✓ 適切なコストで整備するとともに、ライフサイクルコストの観点から長期にわたって効率的に維持管理できる庁舎
- ✓ 公民連携などの視点を取り入れ、付加価値を創出する庁舎

（参考）想定される機能・スペース

- ✓ 環境性能（ZEB、CASBEE、BEMS（ビルエネルギー管理システム「見える化」））
- ✓ 省エネ・創エネ（再生可能エネルギー、日射遮蔽、自然採光、外皮断熱、高効率照明）

- ✓ ライフサイクルコストの縮減
- ✓ 長寿命化に資する建築（メンテナンスのしやすさ）
- ✓ 複合化の検討
- ✓ 民間活力の活用